

会議名 令和元年度 第3回思春期保健ネットワーク会議
開催日時 令和元年11月5日(火) 20:00～21:15
開催場所 八千代市保健センター
会議次第 1 開会
2 議題
(1) 思春期保健の現状と課題
3 事務連絡
4 閉会

出席者

(委員) 柳堀厚・土井弥寿子・鶴岡利江子・宮崎秀典・中嶋弘典・榊奈都美・内田颯一
・原久見子・和田真沙美・茅島江子・東亜紀

(事務局) 母子保健課 中村あゆみ・長谷川恵美・川崎絵美子・松枝恩

欠席者 0人

公開非公開の別 公開 傍聴人0人

1 開会

事務局中村:今回、議事録を作成するためのAIのツールの導入に向けて実証実験を行うこととなりました。マイクを置き、発言される際は、マイクのスイッチを入れて赤いランプがついたら、名前を言い意見や発言を話してください。

事務局中村:資料の確認をさせていただきます。会議次第、思春期保健ネットワーク vol.17 ニュースレターです。こちら案になっております。

加えまして、鶴岡委員から「子どもに伝えたいいのちの話、からだの話」、内田委員から令和元年度第2回家庭教育講演会がございます。

では、この後の議題の進行につきましては柳堀会長にお願いします。

柳堀会長:皆さんこんばんは。第3回思春期保健ネットワーク会議です。出席が非常によく、大変嬉しい限りです。お忙しいところありがとうございます。

柳堀会長:鶴岡委員の講話は1時間が短く感じました。子ども、それから親もきっと、90分2コマでも、飽きずに聞いていられると思いました。やはり「ここまで話さない駄目なのだ」と自分自身は反省して聞いていました。

皆さんいかがでしょうか。少しご意見じゃなくて、質問として何かありますでしょうか。性の仕組みから、子育ての内容も入っていました。その経験に基づいて、本当に鶴岡委員はよく勉強されている。知識が豊富で感心しながら聞いていました。土井委員、いかがでしょうか。小児科の立場だけでなく、親の立場として聞いて、何か感想をお願いします。

土井委員:日々子どもたちと接している仕事なので、色々な方面での悩み事を聞くこともあります。お母さんから「洗い方をどうするの」とか、おりものが出るお子さんのお

しっこの拭き方とかを、自分が指導していたのが、今日の講演会を通して「間違っていたのではなかった」と認識し、良かったと思いました。とても色々なことを学ばせていただいたので、次回も是非ご講演をお願いしたいと思います。

柳堀会長：ありがとうございました。特に、話にありました更年期の女性でも、基本的に洗い方がおかしいこともあります。石鹼で洗っていたり、中まで石鹼で洗う方もいらっしやる。それも間違っているのでは、あえてはっきりと伝えている。先生、今日の話の内容は子どもたちに向けてですね。

鶴岡委員：はい。小学校で説明しています。

柳堀会長：本当に大切だと思います。和田委員、途中から参加でしたがいかがでしょうか。

和田委員：本当に途中からでもったいないことしたなと思っています。途中からでも「そうか、そこまで教えているのか」とわかりました。その部分では、大変勉強になりました。

柳堀会長：宮崎委員どうですか。PTAからすると、今日の話は初めて聞くと、衝撃的だと思います。こういうとこまで話しているのかと思いませんでしたか。

宮崎委員：思いました。

柳堀会長：思春期の男性ホルモンについて説明を受けると親は大変納得します。その辺りいかがでしょうか。

宮崎委員：男性ホルモンと女性の更年期が思春期でぶつかり合うのはしょうがないことでしょうか。その時に父親はどうすればいいのですか。

鶴岡委員：こちらはいつも後半で説明しています。哺乳類であれば、子どもが生殖能力を得たら家から出されるけども、人間だけは生殖能力を得ても10年一緒に暮らしています。その為、ぶつかって当たり前なので、座る位置を変えると良いと関わり方について後半は話します。そうすると、安心したように皆さん笑ってほっとして帰られる。これがこの講演が広まった理由です。間違っていたとか、気持ちが悪かったとか、ごはんは食べさせようとか、そういった意見を聞く事があります。今日は入口の話でしたので、説明不足でした。

宮崎委員：その時、父親はどういう立場にいるのが正しいでしょうか。

鶴岡委員：そこはやはり子どもに食べさせて寝かせるというのが基本になります。父親の背中を見せていただければいいと思います。「苦しい」を理解してくれていることが分かればいつか戻ってきます。

宮崎委員：はい。分かりました。あともう一つ、性器の洗い方は小学生向けですか。

鶴岡委員：小学校の授業でも行っています。中学生、高校生では本を置いて自分で読んでもらうことをお勧めしています。今日は入り口の話でしたが、後半の話ではマスターベーションの回数、するしないは自分で決める、基本は手で行う、モノを使わない、性器の扱い方などもお伝えしています。「正面から性を語る大人に初めて出会った」との感想をいただきます。周辺の話では伝わらないことは、正面から

伝えていきます。

宮崎委員：子どもが小さい頃は一緒に風呂に入る時に、洗い方を伝えられますが、小学校の高学年で一緒に入らなくなると、そのあとのことがわかりません。

鶴岡委員：子どもと一緒に入浴に関しては、質問でも多く聞かれます。回答は、「嫌」を基準にしてもらっている。子どもが小さくても、お父さんとお風呂に入るのが嫌だったら、「嫌」が優先です。胸の大きい女の子がお父さんとお風呂に入ろうと思っても、お父さんがちょっと見ていられず、お父さんが「嫌」と思えば、「嫌」が優先。そのように、「嫌」を優先に考えてもらうようにしています。現在、成長したお子さんに伝えるのが難しいなと思えば本を渡して伝えましょうと勧めています。無理な事を相手に伝えても入っていかないの、家族共用の本箱に入れておくのがお勧めです。

宮崎委員：わかりました。

鶴岡委員：我が子には中学校に入った時に本を渡して、見たいところだけ見なさいって伝えていました。中学生はなかなか親には質問しません。ウザイとか、またその話かよ、と言われました。ですからこれからの関りでもまだ間に合います。

宮崎委員：ありがとうございます。

柳堀会長：PTAの会長会議で、話題にするのはいかがでしょうか。

宮崎委員：話はしたいと思います。また、皆さんに聞いていただきたいです。

柳堀会長：是非、PTAの会長会議で、鶴岡委員を呼んでいただいて、講演のようなことをやっていただくのがいいかと思います。

宮崎委員：前回の会長の会議で、次回、防犯パトロールの人が来て、一緒に話をしたいと言っていたので、こういう思春期の話もできるのかもしれない。提案してみます。

鶴岡委員：皆様が安心して子育てをして欲しいです。防犯になるにもなるので、機会があればよろしく願いいたします。

柳堀会長：内田委員いかがですか。家庭教育の方からもご意見ありますか。

内田委員：はい。前回の会議でも聞かせていただきましたが、やはり皆さん、やり方は違いますが、視覚的なものもあり、大変分かりやすいと自分は感じました。11月1日の家庭教育講演会の中で、今後聞いてみたいテーマの中で性教育という文言がありました。やはり関心を持っているお父さんお母さんもいると思います。そういった機会が大人向けでもあったらいいのかなと感じました。

柳堀会長：では、次に事務局の方お願いします。

事務局川崎：先生の話聞くのはこれで3回目です。毎回勉強になります。地域で赤ちゃん広場という事業を行っています。そこでは、おちんちんのこととか母親が知らないことが多いです。「洗い方はこうだよ」と説明しますが、先生から聞いた話で一番しっくりといますか、リアルだと感じました。母親たちに事業で、「こういうふうに洗えばいいよ」と伝えたいです。男の子と女の子では違いがあるとい

うことを今の時期から知ってもらうことが大事。成長するとともに「何でこんな馬鹿なことをするのだろう」という時期がある事を、情報提供することによって母親も「そうなのか」と理解し、そこでようやくそういう違いがあるのだなと納得して、少し安心する母親もいます。鶴岡委員の話は、皆に知って欲しい内容が多く含まれていると、本当に聞くたびに思います。

事務局長谷川：今日、初めて鶴岡委員の話聞いて、分かりやすかったです。思春期、反抗期の子どもが怒ってくると、親もつい喧嘩になってしまいます。子どもを理解してあまり怒らないようにしようと思いました。親子でお互いに思いやろうと思いました。

事務局松枝：とても楽しい話で、笑って性の話が出来るのは良いなと感じました。それが子どもの頃からできるのはすごく良い環境だと思います。赤ちゃんが生まれて男の子だと、母親は「性器の洗い方はどうしたらいいか」、「友達の子と全然違うけど大丈夫か」など質問があります。今の話はとても参考になりました。歯磨きの仕方は細かく伝えるのに、自分の体の洗い方を親が子どもに伝えるという機会があまりなかったなと思いました。目や口と同じように性器も大事だよという形で伝えていけたら自然であり、恥ずかしいと思う前に伝えていけると良いと思いました。性の話は小学生ぐらいからとっていましたが、乳幼児の頃から話していけるということを鶴岡委員の話聞いて実感しました。私達もできることあるかなと思いました。

原委員：冒頭から、「命がけで生まれて命がけで産んでくれた人がいるんだよ」という、その言葉がすごく説得力と重みがありました。普段は意識していないけれども、とても心に響いてきました。そういったことを若い頃から知って理解してもらいたいなと感じました。

市民の方からご意見を毎年いただいています。鶴岡委員や柳堀会長の話も聞く機会はあったようです。前半で命の大切さ等を共感できて、それはすごくいいお話だったと。しかし、道徳教育がないのは、なぜでしょうかと話がありました。10代の妊娠も減っているようには思えないため成果が上がっているのか、貞操観念なども伝えていくことが大事だと思う等、ご意見をいただいています。思春期ネットの会議でもそういったことを伝えて、ご意見いただきたいという電話がありました。ニュースレターも読んでくださっているようでシンポジウムで毎年どのようなテーマで実施しているかということもご存知のようでした。この場で、委員の皆さんからご意見をいただければと思います。

柳堀会長：おそらく私もご連絡いただいたと思います。全国的にもそういう傾向のある団体等もあります。個人的にそういった貞操概念を大切にしているというご意見のところもある。そのため、その辺りを強く言うかということ、私は少し違う意見です。ただ何とも言えないです。その意見に対してどうか、どうしたらいい

でしょうという難しいと思います。性教育を行っている人は、必ず色々なところから、様々な意見があります。そうすると、そういった方たちは性教育って何だということになってしまって、いつ性教育をやるかという、結婚してからで良いじゃないかというような、そこまで極端な話になるので、そこは何とも言えません。鶴岡委員はご意見があればお願いします。

鶴岡委員：色々な方がいらっしゃるの、私たちは自分の信念でやるということで続けている。学校は沢山取り組みをされていて、その中でも、外部講師でできることをさせていただいています。ご理解ではなく、お互いに自分のできること、信じていることをきちんとやるということで続けています。

中嶋委員：今の話の中で、私たち教員にできない話を、専門家だから医学的な話をきちんとしていただけます。知識を有した方は専門の話をしていただきます。そして、学校でフォローしていく時は、恐らく性の話をするタイミングではなく、日常生活の中です。例えば、トイレについて「何で男の子と女の子が分かれているのですか。僕は男の子だけど、いっぱいだったからこっちで便をしたい。」と、女子トイレに入っていく感情は、性的欲求ではなくて排泄の欲求を満たすための行為なので、止められないじゃないですか。そうなってくると、学校で「男の子・女の子っていうのがいるんだよ」というのを、改めて講演会ではなくても、成長に合わせて話をさせていただけるのかなと思います。ただ、やはり小学校の教員にここまで専門的な医学的な知識を持った話が、子どもたちにできるかというと、そういう教員ばかりでもないの、説得力のある科学的な、医学的な知識を持って話していただけることが非常にありがたいと思います。別に貞操概念を無視しているわけではないと思います。

事務局中村：私も初めて聞かせていただきました。自分も一応医療的な知識はあるはずですが、鶴岡委員の話聞いて、「そうだったんだ」と、すごく基本的なことが実は抜けていたりだとか、ちゃんと説明ができていなかったと改めて気付かされました。とても勉強になりました。母子保健課は小さいお子さんを対象に、妊娠期からだいたい小学校に入る前ぐらいまでの保護者の方々、母親達から相談を受けることが多いです。まだ幼稚園児のお子さん等を育てていて、「性器を触ってしまってそれを外でもやっているから、やめなさいって言って、叩いちゃったりするのだけれどもどうすればいいのか。」といった相談は、電話でいただいたりする機会があるので、そこで先生のように順序立てて、肯定的に触るのは当たり前であり、気持ち良いことを早く知ったからラッキー、みたいな話ができませんでした。母親は女性なのでやはり男の人の性はわかりません。そのため、それが夫ならまだしも、自分の子ども、しかもまだ小さい子がそういうことをするのを母親としても驚き、なぜこんなことを覚えてしまったのだろうとか、この子はそんなことを今からやってこの先大丈夫か、と不安が大きくなってしまいます。

それを、父親に相談出来ているかという、あまりしていなくて「ご主人とかに聞いてみたりしましたか」と質問しても、言えてなくて母親自身で抱えている感じでした。やはりちゃんと説明して、安心させてあげたいです。例えば、触る時は布団の中でねとか、具体的なことを伝えることは、母親の安心に繋がると感じることができました。性が自分の体の健康で大事なこと、食べて寝るのと同じぐらい大事なことだと感じたので、その大事なことを皆に知ってもらいたいというのが、一番の感想になります。

東委員：鶴岡委員の話をお聞かせいただくのは2回目で、1回目は私が性的話を子どもたちにする前に、実際に小学生に話しているところを見学しました。今回は2回目です。小学生とのやりとりから、本当素敵だなと感じ、参考になることが沢山ありました。改めて、プライベートゾーンではなく、プライベートパーツというのは知らなかったとか、この場面からLGBTに行くのかとか、タイミングがなるほどと思うところが沢山ありました。また、50分2コマをどのように交渉するのかなど。

鶴岡委員：保護者の希望で2コマになりました。中学校でも50分2コマで行っています。保護者の希望で2時間取りたいと言われる場合もあります。

東先生：わかりました。中学生を対象にしているのですが1コマになります。そうすると、やはり時間が足りない感じがあり、どのように交渉するのかと思いました。母親たちに、自分が担当する中学校は平日子ども向けなので、保護者も来て良いという事にはなっているが、来られる方はほぼいません。思春期電話相談を8年ぐらいやっています。最近、思春期の子を育てる母親から電話がかかってくる。それも高校1年生くらいの母親で、マスターベーションの道具を見つけてしまったらどうしようとか、あとは、剥くことをずっとやっていたとか。今更この関係の中でどうやってそれを伝えたらいいか、母親たちも結構困っているというのが最近すごく印象的でした。タイミングも含めて繰り返し、小さい頃からもそうですが、繰り返し伝えていく機会があると良いと思います。

茅島委員：とても楽しい話で、手づくりの教材も素晴らしいです。私が、何十年も前に行った時は、動物の交尾形から始まって、資料だけで行いましたが、視覚に訴えるのはとても大事なことだし、わかりやすいと思いました。今、少し助産師の命の教育に対するバッシングがあり、それは、「望まれてきた命」ということを言うべきではないという考え方です。鶴岡委員がどのように話されるかと思ったら、「頑張って生まれてきた、頑張って産んだその命を大切にしたい」という言葉が、良いなと思いました。それは私も、どうしてそういうバッシングになったのかはわからないけれども、他の先生に聞いた時も、望まれて生まれた人ばかりではないからという話がありました。その辺りを、助産師はとかく大切な命とか言ってしまいがちなところですが、とても参考になりました。他には、スキンシップの「温かい」ですが、自分が子どもを産んだときに初めて、赤ちゃんはこん

なにも柔らかくて暖かいのだと思いました。助産師として、何人も赤ちゃんを取り上げているのに、その時は感じなくて、自分の子どもを産んだ時に感じました。夫にも抱かせたりしました。やはりその温かさを伝えるという大切さもとても感じました。道徳教育のことがありましたが、禁欲教育と包括的な性教育は二つ並べられます。鶴岡委員が話されていたのは、包括的な性教育の中でも、要するに、親になる2人が子どもを育てられるようになったら、生殖行為をしようという話があったので、つまりその責任を持てる時にしようねということだったのでしょうか。

鶴岡委員：大人向けなので早回しにしました。性交は子どもを授かるための行為だけではないです。それ以外の性交もあります。それができる年齢、責任が持てる年齢になったらいいなと思ってもらうよう説明しています。

茅島委員：そういうことですよ。本当にそういう意味で、禁欲教育の人たちはとにかく今教えるべきではないと言われますが、包括的な性教育の人だって決して今すぐやって良いとは伝えていません。そのことをしっかり伝えれば分かってもらえるのかと思います。できれば、自分たちが子どもを育てられるようになってから性行為をするようにしようね、ということをお前は読んだことがあります。そういう責任が取れるようになってからしていただき、別に「今しなさい」と言ってるわけではないということをお前はしっかりと伝えればいいのではないかと私自身は思います。本当に、とても具体的でわかりやすく、本当にあっという間に時間が終わりました。

榊委員：3年前まで長くいた学校で、PTAの方から、子どもたちに伝えたいと言ってくださって、まず3年生に、赤ちゃんが生まれる授業を取り入れてやり始めました。そこからPTAが、二次性徴の方も実施して欲しいという話があり、それも鶴岡委員に事前に打ち合わせに来ていただいて、管理職の方にも「こういう話をします、こういう物を使います」と説明して下さって、2年後ぐらいから5年生に話をしていただきました。1日で、3年生に1時間、5年生に1時間という流れを作り実施していただきました。4年生では教科書の保健の授業でちょうど二次性徴があります。3年生で、赤ちゃんがこんなふうに生まれるよ、生まれたときは周りの人が喜びましたよ、というような話をしていただいた後に4年生で、担任とか私が入って、二次性徴の話をして5年生でより詳しく話をしていただくという流れを今も続けてやっています。色々な葛藤が私の中であって、PTAの方のバックアップもあり、そういう形ができたのですが、その学校に勤務する前の段階で、中学校にいた時に、性教育をしたいと私が思って養護教員になりました。私が中学の時の養護の先生がとてもエネルギッシュな方で、婦人科の先生を呼んで中学生に話をしてくださいました。それが大事だなという思いがあったので、そういうことをしたいと中学校に赴任した時に思い、柳堀会長に来ていただいて話をしていただきました。

た。その時は、社会の空気が今よりもそういう話をするなんてどうか、というような傾向もありました。その頃、思春期ネットにも参加させていただいて、研修にも色々行きました。やはり性教育には色々なご意見があるので、教員は学習指導要領に載っていること、小学校だと4年生、中学校だと2年生で行う内容以上を話すことに對し、ご意見を言われても、何も守ってくれるものはないのだということに改めて勉強しました。それが話しても何も言われなかったら、何の問題もならないと思います。担任の先生も、学習指導要領以外の話だって、雑談の中で話していることは沢山あるのですが、性の話というのは色々な考え方があるので、教師が話すということにはすごくリスクがあったり、言葉一つの使い方で、色々な勘違いを引き起こしてしまったりとか、そういうことがあるので、学校で教科書以上のことを深く、話していくのはとても難しいなと改めて思ったのを研修に行ったときに感じました。そういう流れを私がいた学校では、PTAの投資があって、形を作ることができて子どもたちは段階を踏んで学んでいるので、きっと自然に学んでいるので、色々なところで特別なことではなくて、学んでいく環境ができたらいいなと思います。答えがないし、例えば算数で色々な解き方を教えても、算数だったら別に怒られないけれど、性教育では色々なご意見があるので、10年経っても、そこは色々な方がいらっしゃるし、やはり学校としては専門家の力を借りなければいけないなと思いました。PTAのための研修でも、鶴岡委員等呼んでくださって、今のような話を保護者にさせていただいて、平日なのでたくさん来てくださるわけではないのですが、すごく盛り上がり、座談会のような形で保護者同士の話し合いの中でも色々な質問が出て、答えてくださったことがありました。小学生とか中学生だけじゃなくて本当に、保健師からもそういう話を広めていただいて、入学する前からやれることもあるのだなと改めて思ったので、学校だけでやると考えるとすごく辛かったと思わせて、やはり子どもたちに伝える場は学校しかない、というところも始めあったと思うのですが、それだけじゃない方法でもいっぱいできることはあるのかなというのを今伺っていて思いました。改めて、広めていく色々な方法をもっと模索したいなと思いました。

柳堀会長：榊委員の今の意見がまさにこのネットワークです。だから、今年はシンポジウムはありません。こういう話を聞いて、それぞれ、今、学校ではできないことを、行政からどうか、医療からどうかというのを考えていくのはまさにこの会議だと思っています。だから今の意見はとても貴重な意見だと聞いていました。

中嶋委員：話を伺っていて、これからの教育が果たして子どもたちに何を求められているのかと考えた時に、新しい学習指導要領の最初に書かれていることが、急変していく社会に対応できる子どもにしましょう、それから色々な考えや多様化を認めていける子どもにしましょうということです。鶴岡委員の立場から見ただけならば、「命はとても大切であったかいんだよ。人間の体ってこんなにすてきな

ものだよ」だけでも、同じことを、違う立場から見れば、「そうは言っても性犯罪は減らない。被害者はいるだろう。性犯罪者を助長している。」となります。逆に、性を知らないから怖くなるとの意見もあります。要するに人間というのは、グレイゾーンとかブラックなものが怖いのです。知らないことに対して人間は恐怖を持つというのを本で読んだことがある。だから、それを子どもたちに医学的・科学的・生物学的知識として植え付けて、その知識をあなたはどの角度から眺めるのかということ、性教育だけではなく社会科や国語や、算数や道徳でも、自分の立場をどこにしていくかという教育をするのが、今度の新しい学習指導要領の目指すところ。メディアも豊富になり、本当に色々な情報が錯綜する中で、1つの情報に捕われてはいけません。その情報がまず正しいのか、間違っているのかを見極める目を持つことを、情報に対して自分がどの立場に立つのか自分で考えよう、というのがこれからの新しい教育になっていくのだと思います。知識を教えて、頭の中に凶鑑が入っている人間を作るのではなくて、知らないことは聞けばいい、インターネットの情報を使っても良いのだけれども、事実に出会ったときにあなたはどこに立つかを判断させる、そういう教育がこれから増えてくると思う。先ほども申し上げた通り、教員にはオーバーリクエストになったことを話すと、親から猛烈にクレームが来ます。あえて性教育の場面を設けて、専門的な立場の方を呼んで、みんながグレーなところを少し明るくしてみようかって、わからないことを知る勉強にしてみようかっていうポジションを持っていき、あとは、それを子ども、或いは保護者の方とどう判断していくかを、我々は相談したり聞いたりしていくのが、学校の役目になっていくのかと考えました。

中嶋委員：学校でもできるサポートをしていきたいと思います。ぜひ鶴岡委員には、何とか八千代市内の小中学校でやっていただけるように、学校側とPTA側から、広めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

鶴岡委員：私がすごいのではなく、皆さん、周りが知りたいと思ってくれています。期待していることをもっと提示できれば、無料でもいいから1度、保護者の時間を取っていただきたいです。どこの小学校の保護者にも大丈夫な時間を絞ってもらったら、そのあとは保護者の自由です。例えば、これが必要と思うことを1度でも行う時間があってもいいなと助産師会では考えています。

宮崎委員：本当ですね。実現したいと思います。

鶴岡委員：どのような人が来るかわからなければ、呼べません。PTAは必ず私たちの話す内容を見に来て決まりました。学校によっては先生が来て、決めていかれた。急ぐことはなく、保護者に時間を作っていただき、聞いていただいた話を子どもに話しても良いか判断するのはPTAがされるかと考えたりしています。

柳堀会長：ありがとうございます。他にご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

茅島委員：質問いいですか。マスターベーションの時の力ですが、卵を割らない程度という説明でしたが、割ったことがなんですよ。自分の手で卵をね。そのときはどのように伝えればいいですか。

鶴岡委員：ゆで卵を割らない程度との説明で良いです。

茅島委員：ゆで卵ですか。生卵かと思いました。結構力は必要かと思っていた。力の入れ具合を知りたかった。

鶴岡委員：もちろんゆで卵をこちらで用意します。

茅島委員：茹でたのを壊さない程度という意味ですね、わかりました。ありがとうございました。

鶴岡委員：救急外来で看護師している時は、包茎が心配で包茎の皮を切ってくるお子さんもいました。物を入れて抜けなくなったお子さんなどたくさんいました。そういった事例が多くあるので、物を使わないことも伝えていきます。1番小さいお子さんの相談は1歳7ヶ月でマスターベーションしていて一向にやめない。寂しい時のマスターベーションなのでスキンシップを増やすと良いこと、見つけても本人はやめはしないので、興味を他にもっていくとか、具体的なことを伝えていけば保護者が楽になっていくと感じています。

茅島委員：男の子ですか。

鶴岡委員：男の子でした。女の子には傷つけないことを教える。抜けなくなるような物を使わないように伝えます。可哀想だったのが、ボールペンを入れてしまい半年後に見つかり、腹空を破っていたお子さん。物を使わないことは、大事な場所だから小さい時から伝えてほしい。幼児で多いのがパパのビデオを見て、幼稚園とかでマネをしてしまう。他の子を捕まえて腰を動かすとか、パパのビデオを見る子はいっぱいいました。性被害についても性は気持ちいいという事を認めることが大事です。抑圧して、ある日パンツを盗み、我慢していたが射精してそちらに性癖がいつの間にかないように、気持ち良いことは大事であると伝えます。

茅島委員：性の喜びが話題になっています。最近は若者のセックスレスといわれているので、喜びとか快感をきちんと伝えないといけないのでは。

柳堀会長：鶴岡委員は、八千代では具体的に何校実施しているのですか。

鶴岡委員：3校です。

柳堀会長：中学校はきっと鶴岡委員と東委員と私でほぼ行っています。そうすると、小学校22校で出来れば良いです。小学校で話ができるような体制を、この会がバックアップできるのか。どうしても費用が出てくるでしょうから、PTAの協力が無いとなかなかできない。そこを何とか、鶴岡委員1人しかいないのですが、助産師会を通じて、それから秀明大学の看護学部の協力を得ながら、できれば八千代の小学校でも、今の中学校でも実施していただきたいです。私は徐々退くような感じにしたいです。中学校での実績を作っておいて、小学校からもっとその下の

幼児教育まで。PTAにもっと話をしていくというのができるように、何かこの会で、できればと思います。今日の話聞いて、皆さんよかったと感じている。それぞれ今日来ていただいている委員は、所属の団体の代表で来ているため、どうぞ所属団体に、この話を流していただくとか、これからの皆さんの役目として考えていただけたらありがたいなと思っています。鶴岡委員ぜひもう1回お願いします。本年度、今年はあと1回。次の来年度でもいいので、ぜひお願いしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

鶴岡委員：今日はお時間いただきありがとうございました。

柳堀会長：時間になりましたので、お知らせです。

茅島委員：秀明大学の大学祭が9日10日にございます。パンフレットがあります。もしよろしかったら是非いらしてください。母性看護学部は東委員が中心になって、女性のためのハンドケアということで、アロマの香りのハンドケアをやるのでよろしくをお願いします。

内田委員：前回、最後にご連絡させていただきましたが、11月1日に第2回の家庭教育講演会が生涯学習振興課で行いました。集計途中ですが、わかる範囲でお伝えします。全体として66人参加。参加された方は、思春期の子どもを持っているお母様方の他にも、これから思春期迎える子どもがいるからどういった対応をしていけばいいのかなというようなことで参加されたという方もいらっしゃいました。特にそういった方の中で特別書いていただけることとして共通するのが、大体子どもにどう接したらいいのか知りたくて参加しましたという記載が多かったと感じました。感想に関しましては、共感すること、子どもの気持ちに共感していくことの大切さが印象に残った、共感していくことを実践していきたいと思うというようなこともありました。マイナスと思っているようなことが、本当はその子にとっていいところでもある、ということも印象に残ったという記載がありました。そして今後聞いてみたいテーマとしましては、先ほどもお話ししました、性教育、思春期の性について、あとは、年代別の男子女子の扱い方について、また反抗期の乗り越え方とか、そういったことにも興味があるようです。まだ途中なので、これが全部の意見ではないのですが、紹介させていただきました。

柳堀会長：ありがとうございます。他に周知する事ありますか。委員の中でというのはよろしいでしょうか。では、事務連絡をお願いします。

事務局松枝：1点報告があります。思春期保健ネットワークニュースレター案、両面刷りのものをお配りさせていただきました。昨年度開催しました思春期保健シンポジウムの内容をまとめたものになります。講師の先生にも確認いただいております。今後、子どもたちを通じて保護者にお配りしていく予定ですので、報告させていただきます。

柳堀会長：次回、残り1回の会議です。今年はシンポジウムがなく、各委員のお話を伺って

これからこの会で何ができるのか考える年になっています。ただ、あと1回しかありません。話を伺いたい方がたくさんいます。和田委員から以前に10代の妊娠について発表いただいた内容をまた聞きたいです。あの時は、時間どのくらいいただきましたか。30分ぐらいでしたか。次回、お願いできますでしょうか。

和田委員：はい。わかりました。

柳堀委員：東委員もお話をお願いします。茅島委員と時間30~40分ほど大丈夫でしょうか。

茅島委員：どのような内容がいいでしょうか。

柳堀委員：本当に思春期に関係なくてもいいです。本当に、ざっくり秀明の看護学部の目指しているところでも構いません。よろしいでしょうか。今年はシンポジウムがないので、土井委員どうでしょうか。土井委員が紹介された本を読ませていただきましたけど、マルトリートメントなど小児科外来で感じていることで構いませんので、次回はできれば、3者からご意見をいただいて勉強させていただくということでよろしいでしょうか。よろしくをお願いします。日程になります。1月でよろしいでしょうか。1月21日の火曜日にさせていただきます。次回も楽しみにしております。皆さん、よろしくお願いいたします。遅くまでお付き合いいただきましてありがとうございます。本日はありがとうございました。